青梅市男女平等情報紙

No. 9

よつばの手紙

特集「共に輝く 未来のために」

目　次

- 特集「共に輝く 未来のために」…… P2
- 相談窓口の案内…… P4
- 行ってきました…… P5
- 市内企業レポート…… P6
- さんかく図書室…… P6
- 現場の芽…… P7
- 地域の目…… P7
- おうめの散歩道…… P7
- 人のわ…… P8

青梅看護専門学校生の谷合さんとクラスメイト

第五次青梅市男女平等推進計画・青梅市プランの全文は、青梅市ホームページ（http://www.city.ome.tokyo.jp/）でご覧になれます

特集

共に輝く 未来のために

男女雇用機会均等法（1985年）の成立からまもなく３０年が経過します。職種ごとの男女格差はどのように変わってきたのでしょうか。今回は、一般的に女性が多いと思われる職場で活躍している男性３人にインタビューしてみました。

保育士

「自分が本当にやりたかったことが実現して嬉しいです」と語る高橋秀太さんは、３歳児12人のクラスを受け持つ保育士。青梅市の成木保育園で62人の子どもたちを見守ります。

きっかけは

高校3年生の時、家庭科で子どもについてレポートする授業があり、たまたま保育士について調べました。知り合いの保育士さんに話を聞くうちに男性保育士の必要性を感じ、もともと教師志望で社会福祉関係など人と接する仕事に就きたかったので、この授業が大きなきっかけとなりました。家庭科の先生のお陰かもしれません。

保育士資格を取るために

資格を取得できる専門の学校を探しました。正直に言って男性が自分ひとりだったらという不安もありましたが、入学した短大（三年制）ではクラス36人のうち11人が男性。保育園と養護施設の実習はとても有意義で、保育士になるんだという実感が持てて嬉しかったです。クラス全員仲が良かったことも学生生活の充実につながりました。保育原理やコミュニケーション論、子どもと音楽表現などを学び、小学1年生の時から習っているピアノが役にたちました。

高橋秀太さん

やりがいに感じること

昨年度、年長組を担任して1年やり遂げたことで、子どもとともに自分も成長させてもらったことです。年長組として行事も多いのですが、5、6歳になると大人と同じような考え方もできるようになるんです。逆に子どもから注意されたり教えられたりすることもありました。卒園式の日は担任できた感激で一杯でした。今は「先生、また明日遊ぼうね」「先生大好き」と言われると本当に嬉しいです。

初めの頃はやはり男女や年代で遊びやお世話の仕方も違うので戸惑いもありました。辛いことは、ないですね。

仕事に対する姿勢は

女性職員が多い中で、男性として特別視されないように何でも同じようにするよう心がけています。ミシンもかけますし、もちろん重たいものは率先して持つようにしていますよ。子どもたちとは単なる仲良しではだめだと思っています。保護者とのコミュニケーションを心がけ、子どもの話を聞き、子どもの気持ちを受け止めるようにしています。

私生活では10月に二人目が生まれ、親になって、子どもと親それぞれの視点から気持ちを考えられるようになりました。

看護学生

看護学や解剖生理学、薬理学に病理学に心理学などの他、「英語や情報科学、体育の授業もあるんですよ」と生き生きとした口調で話してくれた東京都立青梅看護専門学校3年生の谷合恵介さん。各学年の定員は80人で、3年生はそのうち14人が男性です。

きっかけは

以前は建築関係の仕事をしていましたが、体調を崩し退職したことをきっかけに、もう1度自分の人生を考えました。人のためになること、直接人と関わる仕事がしたいと、看護師の道を選びました。

学校では

クラスではまだまだ女性の割合が多い中、それでも年々男性の入学者も増えています。実習では女性は相手の気持ちを汲み取るのが得意だし、男性は全身のサポートが必要な時にしっかりと支えになることができます。クラスの皆、患者さんが安心して療養生活をおくれるよう第一に考え勉強しているので、女性だから男性だからというよりも同じ目標を持った仲間といった感じです。

心がけていること

最初の頃は実習で患者さんの話を聞いているうちに感情が同調してしまい、辛くなってしまう時もありましたが、看護師としての仕事をきちんとやることが大切なんだと、現場で体験したからこそ気づいたこともたくさんあります。あとはスポーツをしたり、散歩をしたりなど、リラックスすることでリフレッシュするよう心がけています。

谷合恵介さん

看護師になるために

自分の体力がしっかりしていないと患者さんに不安をあたえてしまうので体力作りのトレーニングをしています。あとは相手の気持ちをもっと汲み取れるようになりたいと思っています。また、医療は日々、進歩しているのでこれで終わりというのはない世界ですが、仲間と一緒に頑張ります。

家庭科の教師（非常勤教員）

「家庭生活の基盤となる衣食住の重要性」また「生きていくうえで必要な基本的な知識・技能」を子どもたちに興味・関心をもってもらいたいと、市内藤橋小で家庭科を教えている先生の大越勉さんにお話を伺いました。

きっかけは

家庭科の先生が男の先生と聞いて驚く児童もいますが、本来、私ども小学校の教員は、全教科（国、社、算、理、…）どの教科も教えられなくてはいけないんです。定年退職後に再任用で藤橋小に配属されることになった時、それまで家庭科を指導されていた先生が退職されたこともあり、できれば家庭科を指導してくれないかと当時の校長先生から話があり、多少不安はあったけれども、自分でも嫌いではなかったし、何とかやってみようと承諾し、現在に至っています。

何年目ですか、授業環境はどのような感じですか

今年で3年目になります。5・6年生2クラスずつで週一回2時間の授業をしていますが、将来自分が親元を離れ一人で生活するようになった時、「どのように生きるか」「生活に役立つものは何か」という生きる力を、衣食住の学習を通して学んでほしいと思っています。たとえば、衣服の学習では季節に合った服の着方を考えたり、食事の学習では栄養バランスのとれた献立を考えたり、住まいの学習では夏の暑い時期にはグリーンカーテンをして暑さを和らげる等、実生活と結びつけて、興味・関心

が深まる授業をしようと心がけています。

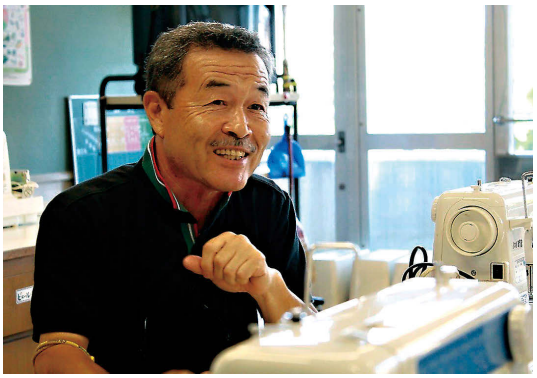
良かったこと、やりがいを感じる時は

学校で学習したことを家庭生活で実践し（夏休みトライカード等）、家での仕事を家族任せ人任せにしてはいけないと、家族の一員として取り組み、継続している話を聞くと、指導する側としてもとても嬉しいものです。また、近年は共働きの家庭が多くなり、父親が料理を作る機会もあるのか、以前に比べ男子も積極的に調理実習に参加する姿が見られます。家事を家族全員の仕事として捉え、一人ひとりの役割を位置づけさせることも必要だと思います。

仕事に対する工夫は

保護者も男性の先生と聞いてビックリすることが多いので、男の先生だから料理は大丈夫？裁縫やミシンの教え方が・・・、と言われないように、道具類一つひとつを丁寧に扱うことを心がけさせ、怪我をさせないよう安全に注意し、指導しています。調理実習前には、使用する食器類はすべて洗浄し、用具によっては煮沸消毒をすることもあります。また、実習する料理を我が家で実際に作ってみたり、裁縫の実習では、児童が作る作品と同じものを数種類作ってみたりすることによって、どこでつまずきやすいのか、どこが工夫できるのか、事前にチェックしておきます。

家庭科の学習を通して、家庭の一員であることを自覚し、自分に何ができるのか、こんなふうにすればもっと生活が楽しくなると気づき、実践できる児童（人間）に育ってほしいと思います。これからも、私自身児童と共に一緒に成長していきたいです。



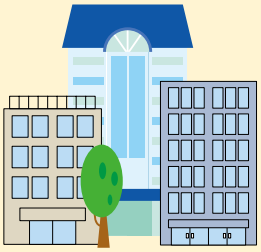
大越（おおこし）　勉（つとむ）さん

相談窓口の案内

公的支援機関の相談窓口をご利用ください。

	相談先	内容
女性の相談	**東京ウィメンズプラザ　TEL 03-5467-2455** 毎日　9:00～21:00（年末年始は休み）	女性の総合相談 ドメスティック・バイオレンス、夫婦・親子の問題、生き方や職場の人間関係など （就職活動の支援は行っておりません）
	東京都女性相談センター 多摩支所　TEL 042-522-4232 月～金曜日　9:00～16:00（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）	
	青梅市役所　TEL 0428-22-1111 月～金曜日　8:30～17:00（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）	
女性の就職	**マザーズハローワーク東京　TEL 03-3409-8609** 月～金曜日　9:00～17:00（土・日曜日、祝日は休み）	キャリアカウンセラーによる女性の就職活動全般の相談 キッズコーナーも併設
	ハローワーク立川 マザーズコーナー　TEL 042-523-1509 月・木曜日　9:00～19:00、火・水・金曜日　9:00～17:00 第１・３土曜日　10:00～17:00 （第２・４・５土曜日、日曜日、祝日、年末年始は休み）	
就職	**ハローワーク 青梅　TEL 0428-24-8609** 月～金曜日　8:30～17:15（土・日曜日、祝日、年末年始は休み）	職業相談 求職活動のサポート
労働	**㈶東京しごと財団 東京しごとセンター 多摩　TEL 042-329-4510** 月～金曜日　9:00～20:00、土曜日　9:00～17:00 （日曜日、祝日、年末年始は休み）	就職支援アドバイザーによる就職活動支援、仕事探しのアドバイス、職業紹介、面接対策など

男性のための悩み相談
東京ウィメンズプラザ　TEL 03-3400-5313　月・水曜日　17:00～20:00（祝日、年末年始は休み）
夫婦・子どもの問題、職場や地域の人間関係、セクハラや暴力の問題など男性の抱えるさまざまな悩みに男性相談専門の相談員が対応



行ってきました

☆ハローワーク立川 マザーズコーナー☆

東京都には、仕事と子育ての両立を目指す方の専門ハローワーク・専門コーナーとして渋谷に「マザーズハローワーク東京」、都内8か所のハローワークに「マザーズコーナー」があります。

そのひとつ、「ハローワーク立川マザーズコーナー」はJR立川駅北口から徒歩3分の立川ワークプラザ（鈴春ビル5階）の中にあり、壁で仕切られた一角にキッズスペースやベビーチェア、授乳室を備え、子ども連れでも利用しやすい工夫がされています。

ここでは、「仕事と子育ての両立」に理解のある企業からの求人を始め全国ハローワークの求人から、それぞれの希望条件にあった求人を検索できます。

マザーズコーナーの大きな特徴として個別担当制を行っており、専門スタッフによるきめ細かな相談が継続して受けられること、さらに予約制（1時間程度）で、ゆっくりと相談することが出来るため、事前に予定を立てておけるのも安心です。

「就職活動支援にあたっては、単に求人情報を提供するだけでなく、コーナーを利用する皆さんが自信を持って就職活動ができるよう心の支えとなることも重要。一緒に考えていくということを大切にしている。書類の書き方や面接の受け方等もアドバイスすることもある」と職員の方が話してくれました。まさに専任の担当制ならではの、一人ひとりに合わせた対応がなされていることが感じられました。

利用される方や子どもの年齢、状況もさまざまです。ご本人の希望条件や状況を整理し、場合によっては保育や関係機関（福祉）につなげる情報を提供することもあるそうです。（多摩地域の保育情報もファイルされています）

マザーズコーナーの利用者層は子育て中の方や子育てが一段落した方など一〇代から五〇代と幅広く、仕事と育児を両立したい男性も利用しています。

利用者数は年々増え、採用件数も伸びています。利用者の希望は、通勤や勤務時間（子どもの保育状況等）を考慮して、まずはパート勤務からというケースも多いようです。もちろん今までの経験を生かせる職場、興味をもった企業とのマッチング、オンラインでつながった全国ハローワークの求人企業への就職も期待できます。「お母さんは宝の山です」と話している企業もあるようです。

「すぐに働きたい」という方だけでなく、将来のためにという方も、まずは一度相談（要電話予約）してみてはいかがでしょう。

※ハローワーク立川マザーズコーナーの問合せにつきましては、四ページの相談窓口「女性の就職」をご参照ください。

☎042-523-1509

ハローワーク立川マザーズコーナー

市内企業レポート

～地元の皆様方に親しんでいただける医療機関をめざして～

新町クリニック健康管理センター
所長 髙木（たかぎ） 敏（さとし）さん

西多摩初の一般の方を対象とした日曜健診を実施している新町クリニック健康管理センターの髙木敏所長にお話を伺いました。

◆事業内容

平成５（1993）年９月に高木病院の健診部から独立し発足しました。企業への出張健診や人間ドック、生活習慣病健診、がん健診、産業医派遣や健康指導のほか、内科、消化器内科、神経内科、漢方内科、婦人科の外来診療を行っています。

◆発足当時から現在の苦労

出張健診や産業医派遣の依頼を企業より直接依頼されることもしばしばありますが、その企業の健康保険組合に了解を得なければ健康診断を実施できない点は苦労しています。

◆新たな事業（サービス）について

平成25（2013）年７月より、西多摩初の一般の方対象の日曜健診を実施しました。約10年前から、建設関係の健康保険組合より「日曜日に健康診断を行ってほしい」との要望を受けて、年１回の日曜健診を開始しました。この健診が好評で、その後年間２～３回行うようになりました。当初はスタッフの確保など心配した点もありましたが、問題なく稼働できたことから、平日に受診できない方を考慮し一般の方対象の日曜健診を検討していました。対応すべき検査項目が増えたことによる諸問題をクリアすることができ開始に踏み切りました。

男性は企業での健康診断を受診していることから受診率は比較的高いが、女性の受診率は今も低い状況です。そこで、女性が受診しやすいように女性専用の受診日『レディースデイ』を現在検討しています。

◆健康に関するこだわり

産業医としても活動している中、従業員に健診を受診させたままの企業が見受けられます。健診で最も重要なことは、健診後のフォローであると考えていますので、今後もその点を啓発していきたいと思います。

新町クリニック健康管理センター（新町３丁目）
設立　平成５年９月
従業員数　160人（男性17人／女性143人）
人間ドック、生活習慣病健診、出張健診、各種がん健診、保健指導、産業医派遣など
http://www.shinmachi-cl.com/

さんかく図書室

ナースマン
―新米看護士物語―
小林光恵 著
メディアワークス発行
主婦の友社発売

タイトルの「ナースマン」は、「看護職（ナース）を選んだ男（マン）」を現した著者の造語です。

主人公の相馬君と他３人の新米看護師たちが、配属された病棟で、ハンサムウーマンな先輩看護師や、個性豊かな患者たちとのふれあいの中で繰りひろげる、泣き笑い成長物語（小説）です。彼らが看護師を目指した経緯、過去との確執もからめながら、日々前向きに奮闘するエピソードは、看護師経験のある著者の丁寧な取材によるものです。

気楽に読めて、時々ほろりとさせられる一冊。読書の秋に、いかがでしょうか。※『ナースマン』―新米看護士物語― の原本は看護士となっております。

青梅市中央図書館で所蔵しています TEL 0428-22-6543

現場の芽

5月に市役所で開催された「第44回おうめ健康まつり」は、市民の方々に健康について考えるきっかけを作っていただくためのイベントです。昨年までは「市民健康の集い」として長年親しまれてきましたが、今年は名称の変更とともに内容を一新し、従来の体力測定や健康相談に加え、春風亭ぴっかり☆さんによる落語や、市役所の庁舎周り（約５００メートル）を利用したウォーキング教室等を実施したところ、多くの方々にお越しいただき、皆様の健康に対する意識の変化を感じとることができました。

中でも、エクササイズ用ポールを使った親子バランス体操教室では、全身をほぐして気持ち良さそうな表情を見せる親子や、心もほぐしてポールではしゃぐお子さんの姿など、様々な健康の形を確認することができました。

地域の目

「地域の人たちと一緒に美味しいお酒が飲みたいなあ。それが活動に参加するきっかけです。今は、活動自体が息抜きになっていますよ」。そう話してくれたのは、藤橋二丁目に住む潮田茂男さん。青少年委員として活動する側ら、市立今井小学校の田んぼボランティアとして、地元の人や子どもたちと田んぼを通して交流し、地域を見守っています。

この活動を始めて約五年とのことで、体験学習に参加した保護者から声を掛けられることもあるそうです。

活動中は子ども自身が主体的に動いて体験することを意識し、口は出さず見守り役に徹することが大切だそうです。

「田んぼの総仕上げである餅つきでは、とてもおいしそうに子どもたちがつきたてのお餅を食べるんですよ。このために一年間やってきた。そう言っても過言じゃないですね」。優しい笑顔でこれからも地域や子どもたちを見守ってほしいと思います。

おうめの散歩道

霞川遊歩道

根ケ布の天寧寺裏手にある霞池を水源とし、青梅市の東部を入間川に向かって流れる霞川。山梨から東京湾へと注ぐ多摩川に比べると小さく穏やかな川ですが、周辺住民に親しまれています。

この霞川沿いには第四小学校の正門横から入間市との県境まで5キロメートル少々の遊歩道が設置されており、ウォーキングやジョギングを楽しむ人も多く、住民の憩いの場のひとつになっています。

東青梅の起点から今寺辺りまでの閑静な住宅街を通って木野下に入ると、風光明媚な田畑の風景に変わります。特に初夏から秋ごろまでの時期は水田のさわやかな緑が広がり、振り返れば大岳山、天気が良ければ富士山まで望める景色が楽しめます。

また、木野下から藤橋、今井小学校の辺りまでは霞川の護岸工事とともに遊歩道が整備され大変歩きやすくなっています。近辺にはツツジや火渡りで有名な塩船観音寺があるのでそちらへ足を延ばしたり、今井小学校の先にある今井ふれあい公園で一休みするのも良いでしょう。

霞川遊歩道

話ひと輪 環和

人のわ

足立（あだち） 勇馬（ゆうま） さん（20歳）
（今寺在住）

生まれも育ちも青梅市、大晦日生まれの20歳です。高校3年生の時に、思わぬトラブルからヒッチハイクを経験し、ヒッチハイクという非日常な移動手段でいつか旅をしてみたい、という想いが芽生えました。さらに、ロードバイクで日本一周を終えた先輩に出会い、話を聞いているうちに、自分もやってみたいと思うようになりました。

夢であったヒッチハイクと日本一周をプラスしたら面白いのでは？という思いから、ヒッチハイクでの日本一周をしてきました。

「日本一周　67日間　45都道府県を216台」（千葉県、沖縄県には行っていません）

出会った方にお誘いいただき、夕張メロンの栽培や牛舎での牛のお世話など、素敵な経験ができました。また、家に泊めていただくことも非常に多く、その地域の文化や特色について学ぶことができました。

完成した旅路は奇跡の積み重ねであり、216台のどの車が欠けてもその先の経路は全く別のものになっていたでしょう。

ネットで調べればすぐに情報が手に入る時代。便利な時代だからこそ、目と目で対話することでしか言葉の本質は見抜けないと思うのです。通信より通話、通話よりも対話。生の声を聞き、ホンモノを見ることの大切さを学びました。

あの時の出会いが新しい出会いを生む。これからも〝人のわ〟を大切にしていきます。

ヒッチハイクで日本一周を達成した足立さん
（2012年８月～10月）

◇みなさんのご意見・
ご感想をお寄せください◇

「よつばの手紙」で取り上げたい内容がありましたら、お知らせください。

よつばの手紙　第９号

発行日　平成25（2013）年11月
発　行　青梅市企画部企画調整課
電話　0428-22-1111
内線　2423
編　集　男女平等情報紙編集委員会
編集委員　福島恵美子　三輪　覚子
岩波　直樹　佐藤　裕子
川﨑　茜

＜編集後記＞

●今では当たり前になった男性の看護師さんや保育士さん。取材を通し、確かな男女平等参画社会への流れを感じました。（ふ）

●編集に参加して、人と人のつながりを見つめなおすいい機会をいただいたと思っています。「適切な表現」の文章にする難しさを知ると同時に、沢山の言葉を考える楽しい作業でもありました。（み）

●「健康第一」という言葉をよく聞きます。健康でないと何かとうまくいかないことが多く、自分で健康管理をしっかりとするためにも、定期的に健康診断を受けようと思います。（い）

●取材、編集を体験し、取材で聴けた生の声やいきいきとした表情から市民のパワーを感じ、それがわたし自身のパワーにもなりました！よつばの手紙のこれからの取り組みも楽しみです！（さ）

●人のわを初めて担当して、人と話すことや相手の事を知る事がとても楽しかったです。（か）